

ロバート・スミッソン

《ノン・サイト（デス・バレー南、127号線上の リッグスとシルヴァー湖の間で採取された石灰岩）》



ロバート・スミッソン(1938-1973)
《ノン・サイト(デス・バレー南、127号
線上のリッグスとシルヴァー湖の間で
採取された石灰岩)》

1968年
彩色されたスチール製容器、石灰岩：
グラファイト、ゼラチン・シルバー・
プリント、地図
容器：10.16×92.71×29.21cm；
地図：51.7×43.1cm
平成26年度購入

© Holt-Smithson Foundation/VAGA,
New York/JASPAR, Tokyo. Courtesy
of James Cohan Gallery, New York/
Shanghai

2

の作品の構成要素は、ひとまず二つ。まず、床にジグザグ形の鋼鉄製容器が置かれ、中に白色の鉱物が入っています。一方、壁面にはカリフォルニア州の地図が架けられ、その上には写真が二枚貼り付けられています。床に置かれた立体物と、壁に架けられた地図&写真とは、どのような関係にあるのでしょうか？

ロバート・スミッソンは、ユタ州のグレート・ソルトレイク湖に造成した螺旋状の突堤《スパイラル・ジェティ》(一九七〇年)によって、「ランドアート」と呼ばれる動向の代表的作家として知られています。

さきほどの問いに戻ると、答えは案外簡単に見つかります。作品タイトルを見てください。すると、鉱物は石灰岩で、地図と写真はこの石灰岩を採取した場所を示している、という関係にあることが分かります。

タイトルにはもう一つ、「ノン・サイト(Non-site)」という語が含まれています。ノン・サイトとは、スミッソンが六〇年代末に制作したシリーズ作の名です。「ノン・サイト」は「サイト」と対になって使われ、それぞれ「非」場所、「場所」などと訳されます。スミッソンは山岳、砂漠、工業地帯などを旅し(その場がサイトとなります)、そこで採取した鉱物を金属製の「容器」や鏡、地図、写真と組み合わせ、これらの集合体をノン・サイトと呼びました。ここで重要なのは、ノン・サイトは現実の場所であるサイトを指し示

す代理物ではないという点です。「私はノン・サイトを考案した。それは物質的に、サイトの倒壊(混乱)を包含している。容器はある意味で断片そのものだ。あるいは三次元の地図とでも呼ぶべきものだ。[中略]それはより大きな断片化に属している断片として存在している(ロバート・スミッソン「思考の沈殿——アース・プロジェクト」『アートフォーラム』一九六八年九月号)。

「より大きな断片化」の「断片」という言葉が示すように、スミッソンは作品を完了したものでなく、自然の諸プロセスの影響を受け、変化していくものと捉えました。そして作品の意味は、自律した形態を持つ「物体(object)」としてでなく、サイトとノン・サイトの間に抽象的、流動的なものとして立ち上がります。冒頭で構成要素が「ひとまず二つ」と述べた意味はここにあります。地図や鉱物は「断片」であり、それそのもので完結することはありません。たとえば地図上で、矢印が一つの道を指し、別の作品の採取地がその先(つまり地図の外部)にあることを指示する言葉が書き込まれています。スミッソンは、断片を起点に、それをめぐる思考や、それが生み出す記録や解釈など、さまざまな経験がネットワーク状に構築されるといって、新たな芸術の在り方を提示しようとしたのです。

(企画課主任研究員 三輪健仁)